

編 集 後 記

新年明けましておめでとうございます。「臨床神経学」の読者の皆様には、新たな希望を胸に新春を迎えられたことと存じます。

「臨床神経学」は本年 2021 年に 61 巻を迎えました。昨年岡山の学術大会は「大還暦に向けての新たな第一歩」という副題を掲げていましたが、「臨床神経学」も同じく「大還暦に向けての新たな第一歩」を踏み出したこととなります。ですが、皆様ご存知のように、昨年の初めには誰も予期しなかったコロナ禍のために、岡山の学術大会も延期→ハイブリッド開催への変更を余儀なくされました。阿部大会長初め大会校の皆様のご苦労はいかほどだったことかとお察し申し上げます。コロナ禍によって、医療のみならず社会全体が大きな試練に晒されています。直近の大きな第三波の真っ只中でたいへんな状況に置かれている会員の方もいらっしゃるかもしれません。心からお見舞い申し上げます。

最近数号の編集後記でも、編集委員の方それぞれがコロナ禍の中で感じられた所感を披露されています。「臨床神経学」にコロナ禍が与えた影響は・・・皆様忙しくて論文執筆どころではなかったかと思われるところですが、実は、2020 年度の新規投稿数は 11 月末の時点で 110 編と昨年同時点より 18 編増加しており、査読に忙しくなった編集委員の一人は「巣籠もり執筆」と命名しました。正直コロナの影響には施設差、個人差があり、最前線で極めてお忙しい方もいらっしゃる一方で、一般の方の受診抑制などで一時期いつもより時間ができた方がかなりいらしたのも事実

のようです。「臨床神経学」への投稿の増加傾向は実は 2019 年から明確なので、「巣籠もり」は関係ないのかもしれませんが、採択判定までの平均所要日数は 57.5 日と昨年と同レベルを保っており、査読者から熱心な教育的な指導が受けられる臨床神経学を、これからも特に若者の症例報告や論文執筆の練習の場としてご利用下さい。

2019 年 11 月～2020 年 10 月の電子ジャーナル全文 PDF へのアクセス数は 4,664,348 件で、昨年度の 5,685,431 件から残念ながら若干減少しました。原因は不明です。アクセス数の多いのが総説論文なのはいつものことですが、実は数年以上、場合によっては 10 年以上前の総説や学術大会 proceedings がずっと上位を独占しています。時間に古びることのない論文をお書きになられた著者も素晴らしいですが、2 年ほど前から新規の総説掲載を増やしています。これらもご利用いただけましたら幸いです。また最近では神経学会の様々な委員会からの報告や提言の掲載も増えています。学術面のみならず、専門医制度を含む脳神経内科医療の在り方や働き方について指標となる内容が論じられていますので、ご興味ある方は是非ご覧になって下さい。編集委員会の方でもさらに魅力あるコンテンツを提供できるよう努力を続けます。

それでは大還暦に向けた第一歩をこの 61 巻 1 号から皆様と共に踏み出したいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(園生 雅弘)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡 古賀 政利
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

「臨床神経学」 第61巻 第1号 2021年1月1日発行
 編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 戸田 達史
 印刷所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>